

## 「世界青年の船」事業とは？



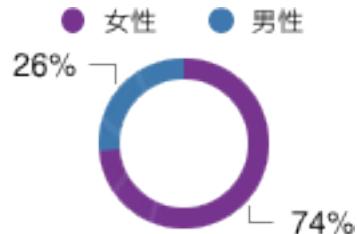
内閣府が主催する次世代グローバルリーダー育成プログラム。世界 11 カ国から約 240 人の青年が集まり、陸上研修・船上研修を合わせて約 40 日間を共にします。

プログラム内容は、コース・ディスカッションやリーダーシップ・セミナー、文化紹介、参加青年による自主活動、寄港地での地元青年との交流など。異文化対応力、コミュニケーション力、リーダーシップを身につけることを目標にしています。

### 平成 29 年度「世界青年の船」事業 日本参加青年のデータ

#### ①男女比

女性 92 名 男性 33 名



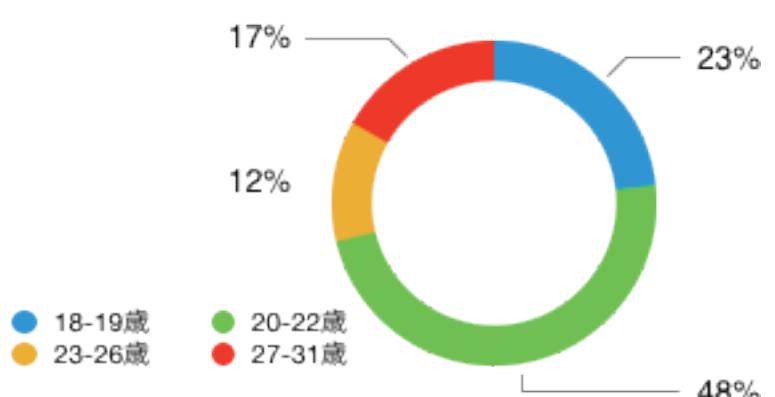
#### ②学生：社会人

学生 92 名 社会人 33 名



#### ③年代(応募時点)

年齢	人数
18・19 歳	29 名
20～22 歳	60 名
23～26 歳	15 名
27～31 歳	21 名



# 事業後の活動について

事業後、参加青年たちはそれぞれのコミュニティやフィールドで、船での経験やネットワークを活かした活動を行います。プログラム自体は1カ月半ですが、その後も生涯にわたって大きな影響を及ぼすのが「世界青年の船」事業の特徴です。

## 子どもが夢を抱ける社会を

キース／モザンビーク参加青年

私の事後活動は、リーダーシップや多様性、夢や可能性など、SWYで学んだこと、経験したことを、モザンビークの子どもや若者と共有して彼らをエンパワーすることです。また、ストリートチルドレンをサポートするためのファンドも立ち上げます。貧困に苦しむ子どもたちも夢を抱ける、明るい未来をつくり上げたいと思っています。このような活動がモザンビークだけではなく世界中に広がり、人々がより希望の持てる世界になっていくことを願っています。



## Online Japan Festival

伴 優香子

船で感じた日本の良さを、船を降りた後でも発信し続けたい…。こうした想いから、日本の特産品を紹介するウェブサイトを制作しています。

船上で、日本各地の魅力や物産を紹介する「Japan Festival」というイベントがありました。各地でたくさんの協賛品をいただき、「Japan Festival」は大盛況のうちに終了。しかし振り返ってみると、「食べたのはどこの県のどの商品だったのか」なかなか思い出すことができません。せっかくその商品を気に入ったとしても、人に紹介したり購入したりすることができないことを残念に思い、「Japan Festival」で提供した協賛品を紹介するウェブサイトを制作することにしました。



## OPEN YOGA

木全 あゆみ

船上で私は、自主活動として、ペルーと南アフリカの青年と一緒に毎日「Sunrise & Sunset Yoga」を行っていました。帰国後も継続してヨガイベントを企画し、ヨガを通じた新しいコミュニティづくりに取り組んでいます。

乗船前、私には自分のスキルをだれかに教える自信はありませんでした。しかし、事業が始まり挑戦したいことを周りの人々に伝えていくうちに、同じ目標を持った人たちと出会い、夢が徐々に実現していったのです。そして、慣れない英語でヨガレッスンを行ったり、約240人もの参加青年の前で活動の宣伝をしたりする体験は、私に大きな自信をつけてくれました。

今後も、みんなの幸せが増すようなイベントを企画し、若者の健康とワーク・ライフ・バランスに貢献できるような活動を続けていきたいと思っています。



## 船を降りても恵まれた環境がある

中西 優紀子

私は事業終了後、インドでインターンシップに参加するチャンスをいただきました。もともと、インドでインターンシップをしたいと思っていたので、帰国後、寄港地活動中に出会ったインドの既参加青年に連絡したところ、希望した地域にある大学を紹介してくれました。船がコチに寄港した際、首都から数百キロも離れたケララ州まで私たちを出迎えに来てくれたことから、SWYのつながりを大切にしている人だと感じ、相談することができました。

世界に広がるこのSWYのつながりは、私たちの興味・関心を広い範囲でサポートしてくれるものです。船を降りた後もこのような恵まれた環境がある…。それもSWYの魅力です。



## ①1月の陸上・船上研修に向けて、 どのように英語力向上を図りましたか？

TOEICのリスニングパートのシャドーイングやオンライン英会話等の実践的な練習を通して、自分の考えを英語で述べられるようにしました。（22歳・学生）

会話を楽しめるようになりたかったので、Skype英会話をを利用して様々な国の人々のアクセントに慣れることを目指しました。また、スマートフォンのニュースアプリを英語設定にし、隙間時間に英語の記事を読むようにしていました。（23歳・学生）

日々の仕事と資格試験もあったので、英語の勉強にはあまり時間を割けず、当たって砕けろ、の気持ちで事業に臨みました。今となっては、もう少し勉強しておけばよかったと後悔しています。（30歳・社会人）

大学で開講されているネイティブスピーカーによる英語の授業をたくさん履修しました。また、大学にいる留学生と定期的に会話をしたり、PodcastでBBC等の海外ニュースを流し聞きしたりして耳を慣らしました。（21歳・学生）

## ②事業参加にあたって、学業や仕事と どのように折り合いをつけましたか？

秋学期の授業を選択する際に、担当の教授にテストをレポート等に変更してもらえるか相談してから履修登録を行いました。（22歳・学生）

大学4年生だったので、応募時から教授と話し合い、早めに研究を進めて卒論を書き上げました。（23歳・学生）

SWYの最終選考が終わった後に上司に相談しました。とても理解のある上司および職場だったので、会社の休職制度、有給休暇、欠勤等、様々な観点から人事部と所属部署で相談してもらいました。特例で、会社を辞めずにSWYに参加できました。（30歳・社会人）

SWYがテスト期間と重なっていたため、秋学期の初めに先生に相談し、試験を早めに受けさせてもらいました。（21歳・学生）